

HKFA Technical Report 2019

平成31年度 北海道トレセンU-12キャンプ

日時
2019年4月19日 (金)
～4月21日 (日)

会場
SSAP・夢きたれ

JFA member
北原 次郎・鈴木 貴浩
尾形 行亮・松田 哉
浮田あきな

HKFA member
安田 秀憲 (報告者)
太田 浩司・村田 一俊
山下 真慶・斐 閔徳
熊谷 卓郎・幸田 英史
本間 清晃・伊藤 公
山内 隆博



1 キャンプの概要

目的は、北海道内の優秀な選手を集め、トレーニングによりレベルアップを図ること、トレーニングを通じてJFAフューチャープログラム (8月) 及びナショナルトレセンU-12 (10月) に参加する選手を選考することとし実施した。

41名 (うち女子3名) を召集し3日間の活動を行った。合宿直前に1名ケガのため不参加の連絡を受け、40名で実施した。

(今回はラージグループでの合宿のため、フォローアップなし) 2月に選手選考してから体格的に大きく成長した選手がいる一方で、屋外でのサッカーに取り組んで日の浅い選手もあり、パフォーマンスが心配されたが充実した合宿となった。

2 合宿1日目

簡単な開講式の後、今後の合宿のウォーミングアップで使用するムーブメントプレパレーションに取り組んだ。

1日目のテーマは「パス&コントロール」として、3～4人組でのW-up、Tr 1、Tr 2を実施した後、4グループに分かれてゲームを行った。初めて顔を合わせる選手同士コミュニケーションを図りながら、和やかな雰囲気に取り組むことができた。

夜のミーティングは、鈴木会長からこの施設を利用するにあたっての諸注意や心掛けて欲しいことが参加選手に伝えられた。また、道U12スタッフからは、この合宿の目的やオフザピッチでの過ごし方についてレクチャーがあった。



3 合宿2日目

午前中は、ナショナルトレセンコーチ北海道担当の北原氏と鈴木氏による「ポゼッション」のトレーニングを行った。

成果としては、ゲーム中においてパスの質を強くしようという意識が芽生えたこと、オフザボールの選手の状態を観て判断するプレーが増えたことである。

パスの質が強くなった一方で、動きながらのパスミスやコントロールミスが課題として挙げられる。また、守備面へのアプローチが少なく、現状で成功したプレーであってもハイレッシャーの状況下では成功しなかった可能性があること。これらをナショナルトレセンコーチとトレーニングを担当した道スタッフでミーティングを持ち共有して午後のトレーニングへ臨んだ。

午後の部は、道スタッフがメインとなり、午前中の課題であった「守備」についてトレーニングを行った。

まず、ドジングを用いて基礎的なステップワークやアプローチの際の姿勢を確認した。トレーニング中は「まずはボールを奪いに行く」という意識を共有し、ボール保持者の自由を奪うこと、ボールを奪う隙を逃さないことを働き掛けた。

成果としては、ボール保持者やマークに対してアラートな状態がつけられたことと、ボールから遠い位置でもポジションを気にしながら狙いをもつことができた。

課題としては、ボール保持者への制限とボールを奪うチャンス逃さないことを、更にレベルアップする必要があると感じた。

トレーニング後は、医学委員会より派遣された神谷智昭ドクターによる超音波検診が参加選手全員を対象に行われ、外傷や障害への適切な対処方法等が各々にレクチャーされた。JFAアカデミー福島の中田氏から、アカデミーの概要説明の後、グループ別ミーティングを行い、2日間のトレーニングの振り返りと3日目のゲームに向けて話合いがもたれた。



4 合宿3日目

宿泊施設の清掃を終えてから選手はピッチへ向かった。各グループでのウォーミングアップの後、この合宿でのトレーニングの成果を発揮する場として、A1・A2・B1・B2の4チームに分かれ総当たり戦でのゲームを実施した。

合宿の総決算として相応しいゲームが繰り上げられた。課題としていた守備はハイレッシャーな状況を作り出すことができた。ただ、その状況をチームで継続することができないという新たな課題も発見できた。

事後のスタッフミーティングでは、6月の合宿に向けて、「かかわる質を高めたポゼッション」をトレーニングに入れてきたいと確認した。



5 まとめ

U12スタッフに新たなメンバー迎え、宿泊施設も新体制で行う今年度初の合宿となった。ケータリング形式での食事に関しては課題が残る形になったが早期の改善を願いたい。トレーニング面では6月合宿へ向けての課題が見つかり収穫の多い合宿となった。

大きな怪我やトラブルもなく無事終わることができたのは、道協会並びに医科学委員会、サポートしてくれたスタッフのお陰であり、心より感謝しております。ありがとうございました。

